

## 佐久地域の高校の将来像を考える地域協議会への意見

(佐久市教育長 榎澤 晴樹)

## 1 生徒の主体的な学びを育む高校に

「高校改革実施方針」に謳われているように、「探究的な学び」がすべての教科学習で具現される授業づくりは改めて強くお願いしたい。「総合的な探究の時間」だけのテーマにとどまることのないようにである。学校づくりの生命線をなす授業づくりのこの課題こそ、現実問題として高等学校における難度の高い課題であろうと推し量るところである。失礼ながら、やっとならば高校教育においても、Active Learning の重要性が国レベルで叫ばれることになり、大きな期待を寄せている。

## 2 老朽化した校舎の改築を

トイレ、冬季暖房をはじめ佐久地域の県立高校の多くが学び舎環境としての基本的な問題を抱えている。心身の健康にも影響するこの問題の改善なくして「夢に挑戦する学び」の追究は空論に帰する。

## 3 生徒の「普通科」志願にさらなる主体性をもたせるために

適正な学校規模（生徒数、学級数）が保てなければ成し得ないことだが、理系普通科高校（SSH などの実績を活かして）、文系普通科高校（SGH などの実績を活かして）をそれぞれ設置することはできないものか。それぞれの専門性がより身につけやすい特色ある教育課程とそれに見合う人的・物的な環境が整えられた高校が選択肢にあることは、より主体的な普通科高校の選択につながるのではないか。

ただし、そうした学校設置にすることで、そもそも高校教育充実のために必要とする学校規模の不足を招いてしまうとすれば、1校の中に両者を共存させなくてはならないが、その場合でも、理系、文系コースを設置して、1年次から、部分的でもよいのでそれぞれの特色ある教育課程が仕組まれることを望みたい。

## 4 県内でも特色ある音楽科は全県・県外募集に

音楽の道を志す者にとって、著名な指導者によるレッスン受講などにかかる時間や費用は莫大である。そこをカバーして音楽の道を拓く支援ができる音楽科は、その特色ある教育課程のさらなる充実と積極的な PR によって全県・県外の志願者に門戸を開きたい。寮などの整備の検討が必要となるかもしれないが、少子化の課題に迫る一策にもなる。

## 佐久地域の高校の将来像を考える地域協議会への意見提出

「中学生の期待とは何か」「その学びの場の要件とは何か」

小諸市教育長 小林秀夫

高等学校で何を学ぶことが、どんなことを体験する事が、一人の人間が歩いていくうえで有意義なことなのか。

高校時代は、自己をみつめまた社会をみつめ、あるべき理想を描こうとする時期である。自己肯定感の起伏も激しく、感情も敏感になる時期でもある。その一方で、この時期に考えた事、悩んだこと、体験したことなどは、その後の人生に大きな影響を持つことになる。

「佐久地域の高校の将来像を考える」にあたって、個々人の能力と希望に応じた特色ある高校を選択できることが望ましい。高校生時代の部活もまた大きな要素であるので、通学に不便な位置に高校が再編されることは望ましいことではない。

鉄道の在来線あるいはバス路線の要衝となるような場所、あるいは駅などから近い場所に学校があることが重要な要件の一つで、高校生となっていく中学生も期待していることの一つだと考える。

また、高校をステップにして大学に進むことを考えている中学生にとって、大人が考える理想的な教育云々はともかく、現実的には、めざす進路につながる教育内容が実施されている高校が必要となる。いずれにしろ、高校が描く教育の特性を中学生にも「見える化」していくことが要件のひとつであると考えます。

参考として 現場の校長の意見を添える。

### 1 中学校長の声

中学校の現場を預かる職として感じるのは、受験勉強→受験→高校進学というプロセスが、今でも、中学生にとって学習意欲向上や自己改革の大きなモチベーションとなっているということです。そんな中学生が、それぞれの個性や、希望を胸に佐久の高校に進んだとき、高校が更に自己の可能性を伸ばせるような存在であるといいと思います。そんな点を踏まえていくつかあげてみます。

参考になると良いのですが。

①成績上位の高校は、大学入試という全国レベルの競争の中で経営が行われているので、学校改革の自由度は低く、全国の潮流に流されてしまうのではないかと思います。それ

はしょうがないことだとも思います。

②成績が振るわない生徒たちの高校は、義務教育の学びなおし、自己肯定感の向上、自己理解の深化といった学習要素を、地域と連携しながら体験的・探究的カリキュラム(職業体験学習・キャリア教育・資格取得等)を大胆に実施して、生徒が学ぶ喜びを感じる学校づくりをすすめてほしいと思います。

③中堅生徒が対象の高校の改革が一番の課題と個人的には考えます。①でも②でもない高校がその特色を今以上に鮮明になるよう運営してほしいです。

キーワードは「自己理解・自己実現」。例えば小諸高校と小諸商業の再編では音楽科以外はくくり募集として、1年生時に自由度の高いカリキュラムを用意し、様々な経験を通して自己理解を深め、2年進級時に(場合によっては3年時でもいい。様々なカリキュラムを体験することが大切なのではないかと考えます。)商業、福祉、普通、国際理解・等のコースを選択していく・教科を学ぶとともに、自己理解を深めていく学びの実現させていく・そんな高校ができるといいと感じています。

概要と、一面的な意見で申し訳ありません。参考にしていただける部分があると嬉しく思います。

#### ○観点1 「中学生の期待とは何か」

中学校教育の大きな目的は、生徒一人ひとりの可能性を引き出すことや個々の持ち味や特性を生かし伸ばすことにより、自己実現(よりよい自己の生き方)の基礎となる能力や技能等を育むこと。

不登校傾向や不適応傾向等の生徒も含めて多くの生徒は

①教科学習全般をバランスよく習得し、専門的に科学分野や環境分野、医学分野等を目指す生徒

②イラストレーターやデザイナー、音楽プロデューサー等の芸術分野をめざす生徒

③スポーツ等の運動分野やICT機器などパソコンを活用した物づくり等のコンピューターや技術分野などを目指す生徒

それぞれに憧れ、自身の得意さを見つけたり、磨いたり、伸ばしたりしている。(学習に価値や意義を見いだしている)

こうしたことから、個々のニーズや特性・持ち味を一層引き出したり、伸ばしたりしてより高度な専門的知識や技能を学べる多様な選択ができる場に期待している

#### ○観点2 「その学びの場の要件とは何か」

①専門分野の資質・能力を一層伸ばし育む多様な選択肢をもつ高等教育の場

## ②個々のニーズや特性・持ち味等を生かすチャンスの場合

学校に通うことが学びのすべてではない。一方、自宅だけで過ごすことも看過できない。校内の中間教室や市支援センター等中間的な学びのとしての役割を果たす場が高等学校中にも位置付けたい。

また、サテライト方式や通信制の学校も仕組みとして整備されているが、個々の目的や能力に応じた独自のカリキュラム(学習内容)や生徒の実態に応じた柔軟な教育課程編制(学習時間や学習場所等)を見据えた仕組づくりも検討したい。

## ③特色ある学校(選択肢を広げる)

地域との連携、企業と連携した教育、多様な分野(国際理解、文化、伝統、環境問題等)に視点をあてテーマを設定した学習を大事にした教育等、特色を明確にした学校を選択肢を広げていきたい。

佐久地域の高校の将来像を考える地域協議会への意見について  
「中学生の期待とは何か」、「その学びの場の要件とは何か」

佐久穂町教育長 倉澤 誠

1. その高校でしか学べない特色あるカリキュラム
  - ・「教育内容・コースに特色ある」ことは、学びたいことがある程度明確な中学生にとっては高校選択の重要な要素である。  
地域の商店や飲食業と連携して、新たな商品を開発するようなプロジェクトには中学生は興味を持っている。  
この学校に入ればこのようなことが学べるというものを、地域社会と連携を取りながら、高校が前面に出すことが必要である。
  - ・普通科の高校においても探究的な学びがあるかどうかは、中学生にとって関心の高いところである。
  
2. ICT機器を活用した授業
  - ・中学校におけるICT機器を上手に使った授業での生徒の満足度は高い。高校においてもこの点を十分に理解して、そのスピードを加速させることが重要である。
  
3. 対話形式で取り組むグループ学習
  - ・今の中学生は小学校からペア学習やグループ学習を多く経験してきている。高校においても一斉授業だけでなく、対話を通して学びを広げ深められるような学習を生徒は望んでいる。
  
4. 「ひとり学習」を保証する時間や場の設定
  - ・集団内の人間関係から解き放たれて、一人で学びたいことを、自分の進め方、自分のスピードで学べる時間、場所を期待している生徒もいる。  
そのような生徒のための自由度の高いカリキュラムがあってもよいのではないか。
  
5. 障がいのある生徒の学ぶ場の確保
  - ・通常の学級で学ぶことが可能である発達障がいの生徒の学ぶ場の確保が、どの学校においても必要である。

## 「佐久地域の高校の将来像を考える地域協議会」への意見提出について

御代田町教育委員会教育長

### 1 地域（小諸市・軽井沢町・御代田町）の中学生の期待と学びの場の要件

- ・もともと旧北国街道や国道 18 号、旧信越線、現しなの鉄道沿いに位置する一市二町は、それぞれに置かれた地理的、自然的条件等から独自の特色や風土を保ちつつ、地理的にも文化的にもつながりが深く、小諸浅麓地区の一員としてかつて陸上大会や音楽発表会等を催してきた歴史があり、一体感が強い地域であると考えます。
- ・小諸市では「小諸学」、軽井沢町では「軽井沢学」としてそれぞれ独自のテキストに基づいて地域の歴史や風土について学んでいる生徒たちが育っています。御代田町でもテキストを編集し、「みよた学」を発足させることになっています。このように地域に学び、地域を大事にしたいという心情が育っており、高校で学ぶ「信州学」へ無理なく、自然に、素直につながっていく素地を持った子どもたちが多いと考えます。
- ・そのような独自性と一体感・連帯感を持つ地域で育った生徒たちが切磋琢磨して学び合う場が地域に存在することは極めて重要であり、この地域の生徒が潜在的に持つ可能性や将来性をさらに伸ばし高めることにつながると考えます。

### 2 「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針（県教委策定）」における旧第 6 通学区についての第 2 期再編計画の方向である 3 点に対して

- (1) 「学校数が多く、全体の学校規模が縮小化している中で、地域の中学生の期待に応える学びの場を整備していく必要がある」について  
○基本的に賛成です。
- (2) 「この地区の今後の少子化の進行を考えると、再編の実施を前提に地域の将

来像を考えていく必要がある」について

○少子化の進行に伴い、再編はやむを得ないと考えます。むしろ、再編を地域の活性化につなげたいとも考えます。

(3) 「これらの観点を踏まえると、小諸市と佐久市に適正数を考慮しながら規模の大きさを活かした都市部存立校を配置するとともに、学びの場の保障の観点も踏まえながら中山間存立校を配置していくことが考えられる」について

○基本的に賛成です。

上記の方向を具現する際に、考えられる可能性としての一案を示します。

商都・小諸に相応しい伝統ある商業科と県下唯一であり全国的にも貴重な音楽科を併合した形で商業や経済、芸術について学べる総合文化的な高校を目指せる可能性があると考えます。(既存の佐久平総合技術高校に匹敵すると考えます。)

普通科高校については、現存の高校が駅からかなり離れているという不便さの解消やある程度の規模を有して生徒が切磋琢磨して多様な進路を保障できるように適切な位置、場所に1校を設けることが望ましいと考えます。

「佐久地域の高校の将来像を考える地域協議会」への意見

(立科町教育委員会)

(中学生の期待とは何か、その学びの場の要件とは何か)

- 1 目標を持ち、高校での学びを社会で活かせる学校
- 2 更なる教養と専門知識を求めて短大、大学へ進む道を選択できる学校
- 3 多様な特性を持つ生徒が学べる学校

これらの学校を、生徒及び保護者の負担（経済的・時間的・他）や地域特性を配慮した学びの場の構築を検討されたい。